

「座右の銘」～大切にしている言葉～

2008年にジム・キャリー主演の「イエスマン」という映画が公開された。後ろ向きな思考で、何事にも「NO」と答え仕事もプライベートもうまくいかない男。参加した自己啓発セミナーで、成り行きから「イエス」しか言わないと誓いを立てさせられる。そんな男の身の回りの変化を描いた物語である。「イエスマン」には、信念がなく、何を言われても「はい」と人の言いなりになる人という意味もある。決してプラスの要素が多い言葉とは言えない。

私の座右の銘は『返事は「はい」か「イエス」か「喜んで』』である。まさに「イエスマン」であり、言いなりという意味が強そうに感じるし、昭和風な印象を与えるかもしれない。では、なぜこの言葉を座右の銘としているのかというと、簡単に言えば視野を広げるためである。

小学校教員として採用され、12年間担任として子どもたちとかかわり、さらに2年間行政で不登校支援をしてきた。そして今年度は文部科学省での勤務。まったく内容の違う仕事で戸惑う毎日。忙しくなったり訳が分からなかったりすることが多い。そのような状態では視野が狭くなり、自分の殻に閉じこもりがちになってしまう。そんな時に限って大変な仕事が舞い込んできてくる。正直「今かよ!」「やりたくない」と思ってしまうこともある。しかし、そこがチャンスである。「その仕事、自分からチャレンジすることあるか?」「声をかけてもらわなかったらこの仕事をすることはなかっただろう」自問自答。自然に出てきた言葉が『返事は「はい」か「イエス」か「喜んで」ですよ』だった。なかなか自分から挑戦するタイプではないので、声をかけてもらえることでいろいろな仕事にチャレンジできた。そして、確実に経験値を積み上げられたのも事実である。もしかしたら今の自分があるのもこの言葉があったからではとも考える。「ひとりごと」の執筆もきっと。

様々な変革の波が押し寄せる今、「昭和だね～」などと言われてしまい、マイナスのイメージが先行してしまうかもしれないこの言葉。ドラマ「不適切にもほどがある」(TBS2024:宮藤官九郎作)ではないが、今と昔を比べて「昔はよかった」「今じゃありえない」と、あれこれ言うことは簡単である。ただの「イエスマン」ではなく、自分を成長させるために、時代に合わせてマイナーチェンジをしながらこの言葉と今後も付き合っていきたい。

(M. I)